

# 検査機器ニュース

(1) 2012年(平成24年)3月5日(月) (毎月5・20日発行) (昭和34年12月26日第三種郵便物認可) 第1229号

## 初のNDTセミナー

検査4団体共催、文科・国交・経産省後援

### 千葉県立東総工高で開催

#### 2年生40人 講義・実習に高い関心

CITW検査協会、日本非破壊検査協会、日本溶接技術センター、日本非破壊検査工業会は2月21日、旭市の千葉県立東総工業高校(山田勝彦校長)で「明日を担う次世代のための非破壊検査セミナー」を開催した。新機種のセミナーでは、1日コースの体験学習を通じ、次世代を担う若者に構造造物や都市の安全を支える非破壊検査技術を紹介。初開催となった今回は同校男子機械科1年生40人が講義と実習を受講した。今後は全国展開を視野に活動を広げる方針で、すでに8月には神奈川県での開催が決まっている。

クラス会長の木津雄介(まづひ)技術が進化して「業あり面」と「初めて君は」セミナーを受講していることを実感した。今の体験ばかりだったが、非破壊検査がどういうものか、いかに大切か、という感想を語り、関係する「一番興味深かったのはサーモグラフィ」の話を聞いた。横濱国立大学の荒川敬一(あらかた)先生が、今後の非破壊検査の発展について、R・T、U・T、M・T、P・T、その他の計測・検査の実習を体験した生徒は、皆さんたちが興味を持っていて、安全・安心な社会は、今は「MT、PTは役に立たない」という意見も多かった。

東総工業高校旭市



生徒に好評だった蛍光磁粉探傷の実習



荒川講師の平易な解説に座学も関心を集めていた



デジタル探傷機、厚さ計の操作にチャレンジする生徒

壊検査という技術がある。きかない貴重な機会であり、将来役に立つと思う。荒川講師)という主催者の意図は十分に伝わった。また、全国初の記念すべきセミナーを同校で開催すること踏まえ、文科省、国交省、経産省の後援を、千葉県立東総工業高等学校、千葉県工業教育研究会、千葉県非破壊検査研究会などの協力を得て開催され、当日は文部科学省初等中等教育局長生徒課産業教育課長から持田雄一(もちの)教育指導主事が実習を視察した。

開講式で挨拶した山田校長は、各種構造物の新設が減少する一方、非破壊検査を適用したメンテナンスが増加傾向にある現状を説明し「きょうの講義と実習は日頃体感している技術がある。明日を担う次世代を担う若者に構造造物や都市の安全を支える非破壊検査技術を紹介。初開催となった今回は同校男子機械科1年生40人が講義と実習を受講した。今後は全国展開を視野に活動を広げる方針で、すでに8月には神奈川県での開催が決まっている。

セミナー委員会の立ち上げを主導したCITW検査協会の遠見俊一(とみ)会長は「すばやく全国展開がスタートした。この第一歩がうれしい」と述べる。また、3省からの後援を得たこと、4団体が協同した初の企画が開始したことについて「きょうのアンケート結果を今後のセミナーに反映し、よりよい内容にしたい」と述べた。

講義では、荒川講師が非破壊検査の誕生から仕組み、適用分野、目的、検査資格、検査を行なっていくことなど、物を壊さないで検査する非破壊検査をわかりやすく解説した。具体的な検査技術については、R・T、U・T、M・T、P・Tを中心に説明するとともに、さまざまな構造物・機器の安全性を影で支えている「非破壊検査の存在を覚えてもらいたい」と、受講した生徒が成長したと喜稱する「と語った。

電子機材科の生徒は1年次に授業で約20時間、溶接を経験している。そこでR・Tの実習では、事前に生徒が溶接した試験片を撮影したフィルムを用意したポータブルのX線装置を持ち込んで撮影装置や保温材を巻いた配管などの透過画像をその場で観察した。M・T・P・Tの実習では、瞬間式・蛍光磁粉探傷法と溶剤除去性・染色透過式現像法を実際に体験した。

セミナー委員会の立ち上げを主導したCITW検査協会の遠見俊一(とみ)会長は「すばやく全国展開がスタートした。この第一歩がうれしい」と述べる。また、3省からの後援を得たこと、4団体が協同した初の企画が開始したことについて「きょうのアンケート結果を今後のセミナーに反映し、よりよい内容にしたい」と述べた。